2026年７月１８日発行

新潟大学「博士のためのキャリアマネジメントセミナー」講義報告

企業の社会的責任　～官と民での経験を通して～

講師：　川口　幸男
元　住友金属鉱山株式会社　代表取締役　専務執行役員
現　技術経営士

2026年6月16日（火）、新潟大学・五十嵐キャンパス（新潟市）において、「企業の社会的責任　～官と民での経験を通して～」と題し、院生約15名（ほかにオンデマンド視聴者）を対象に講義を行った。

1. 講義の狙い

企業を取り巻く事業環境は、脱炭素化などの環境制約、資源制約、地政学リスクなどの社会課題の複雑化により激変している。企業の責務は、利益追求だけでなく、社会課題に適切に対応して「社会的な責任」を果たすことで社会に貢献することにある。非鉄金属企業は、経済や産業に不可欠な重要鉱物を供給する産業であり、環境制約、資源制約などの社会課題に深く関係しているため、社会的責任も重い。最近では、日本が重要鉱物を特定国に過度に依存してきた結果、中国のレアアース輸出規制のような問題も起きている。
本講義では、国際情勢の激変の中で、非鉄金属企業が果たすべき重要鉱物の安定確保などの取り組みや政府の政策、企業が求める人材像などにつき理解してもらうことを狙いとした。

2. 講義の概要

企業の社会的な責任は、本業を通じて社会課題を解決し、社会の持続的な発展を図るとともに企業価値向上や競争力強化を図る企業戦略そのものに進化した。非鉄金属企業は、ニッケル、リチウム、レアアース、銅などの重要鉱物の供給を担うことで大きな役割を果たしてきたが、国際情勢の緊迫化や地政学リスクの増大などの環境変化により、重要鉱物の安定確保の重要性はこれまで以上に高まっている。
重要鉱物の安定供給の確保には、調達先の多角化やサーキュラーエコノミー（資源循環）などによるサプライチェーンの強靭化が必要である。また、代替技術やリサイクル技術は、日本の強みである産業基盤と高い技術力を生かせる分野であり、世界をリードしていくことが期待される。このような企業の取り組みや技術力の発揮には、それを担う「人材」が何よりも重要であり、資源のない日本にとっては「人材こそが最大の資源」と言える。日本が直面する社会課題の解決に向けた企業の活動を支えるのは、自ら考え行動する意欲と情熱を持った人材であり、そうした「人」がこのような分野に魅力ややりがいを感じてくれることを期待してやまない。

3. 学生たちの反応

講義は大変熱心に聴いて頂き、最後には活発な質問も出て、大変張り合いがあった。講義後には担当の弥冨教授から多数の感想・意見と質問を頂いたが、どれも講義の理解と高い問題意識が感じられ、講義の意図が伝わったという実感を得ることができた。

以上